

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2012.9

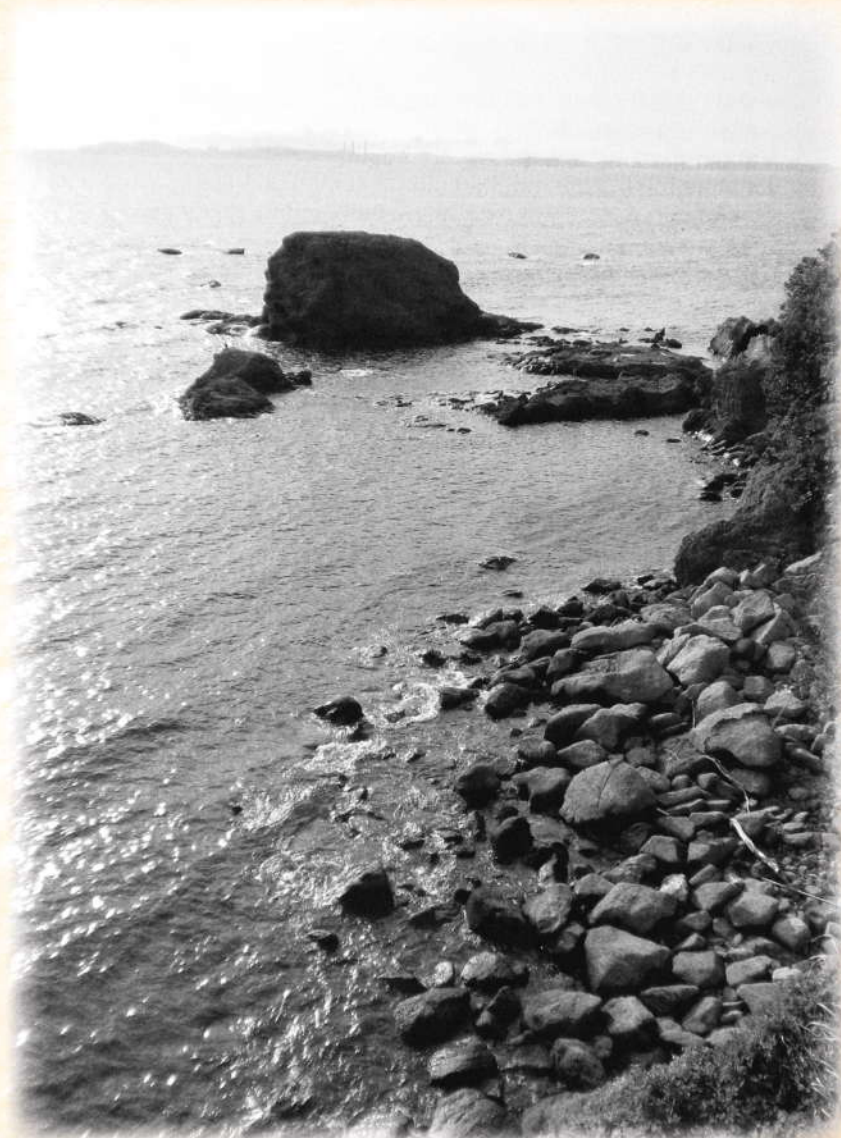
29

◆ 秋 期 企 画 展 ◆

観覧
無料

赤羽台古墳群に眠る人々

— 石と埴輪から探る東国古墳文化 —



◆ 日 時：平成24年10月27日(土)～
12月9日(日)

◆ 休 館 日：毎週月曜日

◆ 開館時間：午前10時～午後5時

◆ 会 場：特別展示室・ホワイエ



秋期 赤羽台古墳群に眠る人々

企画展 一石と埴輪から探る東国古墳文化一

北区赤羽台4丁目に立地する赤羽台古墳群は、古墳時代後期の6世紀後半から7世紀前半にかけて造られた古墳群です。これまでの調査で15基の円墳がみついています。

その中でも比較的早い時期に造られた3・4号墳はやや特異な性格を持ったものです。その横穴式石室には、遠く離れた千葉県富津市付近の海岸で採れる「石材」が使用されており、またさらに4号墳から見つかった「埴輪」は生出土埴輪窯（埼玉県鴻巣市）で作られたものを使用していたことがわかっています。

なぜわざわざ遠隔地から運ばれた“モノ”で古墳づくりを行う必要があったのでしょうか。はたまた赤羽台古墳群に眠る人々とはどのような“ヒト”たちだったのでしょうか。本展示では、東北新幹線赤羽地区遺跡発掘調査30周年を記念して、改めて赤羽台古墳群に注目し、後期古墳に映し出されたモノ・ヒトの動きから北区をとりまく東国古墳文化について探ります。



赤羽台4号墳出土 人物埴輪

〈お問い合わせ〉

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館
TEL: 03-3916-1133 FAX: 03-3916-5900
URL: <http://www.kitacity.tokyo.jp/misc/history/museum/index.htm>

【関連イベント】

①ピックアップ企画展

第1回 ミニ講座「横穴式石室に使われた石材」と通覧展示解説
日時：11月3日(土・祝) 午後2時～3時30分

第2回 ミニ講座「横穴式石室に敷かれた貝殻」と通覧展示解説
日時：12月2日(日) 午後2時～3時30分

[第1回・第2回ともに]

会場：当館2F講堂・特別展示室・ホワイエ (定員30名)

講師：安武由利子 (当館学芸員) 費用：無料

申込：当日先着順(当日、午後1時30分より整理券配布。)

②野外講座「埴輪と房州磯石の故地を訪ねる」(3日連続講座)

日時：〈1日目〉11月17日(土) 午後2時～4時

〈2日目〉11月18日(日) 午前10時～午後4時(予定)

〈3日目〉11月25日(日) 午前10時～午後4時(予定)

会場：〈1日目〉当館2F講堂、〈2・3日目〉野外

定員：30名(抽選)

講師：鈴木直人 (当館学芸員) 費用：無料(交通費は各自負担)

申込：往復はがき11月5日(月)必着

③公開講演会

第1回 「最新の埴輪研究で何がわかるか? - 生出土埴輪窯産埴輪の分析を中心に -」

日時：12月1日(土) 午後2時～4時

講師：城倉正祥氏 (早稲田大学)

第2回：「姿をあらわした埴輪工房 - 生出土埴輪窯 -」

日時：12月8日(土) 午後2時～4時

講師：高田大輔氏 (鴻巣市教育委員会)

[第1回・第2回ともに]

会場：当館2F講堂 定員：80名(抽選) 費用：無料

申込：往復はがき〈第1回〉11月20日(火)、〈第2回〉11月27日(火) 必着

*参加希望回を明記のうえ、ご応募ください。

*本講演会は、往復はがきのほかインターネットでもお申込みいただけます。

(受付は10月8日午前10時から往復はがき申込締切日と同日午後5時まで)

東京電子自治体共同運営サービス <https://www.e-tokyo.lg.jp/top/index.html>

※関連イベントの詳細はお問い合わせください。

VOICE 埋蔵金? 恐竜の化石?? - 発掘調査のイメージとは -

博物館に展示される考古資料のほとんどは、埋蔵文化財発掘調査で出土したものです。「埋蔵文化財発掘調査」と聞いて、みなさんはどのようなことを思い浮かべますか?

発掘調査現場に立っていると、その様子を見ている人が様々な言葉をかけてきます。「埋蔵金とか小判でも出るの?」冗談半分で口にする人も多いのですが、「宝物さがし」のようなイメージが強いのもかもしれません。あるいは恐竜などの化石の発掘と混同される方もいらっしゃるかもしれません。また、「夢がある」「ロマンを感じる」というような声をいただくこともあります。

実際の埋蔵文化財発掘調査とは、縄文時代や弥生時代といった過去の人々の生活の痕跡などが残された遺跡を調査するものです。そして、そのほとんど(9割以上)は、その土地が開発されるなどの際に、そこに残された遺跡が壊されてしまうような場合に、記録として保存し、また土器や石器といった出土品があれば、それらを取り上げ将来的に保存・管理していくことを目的として行われる、かなり地道な作業なのです。時には、厳しい暑さ、寒さ、少々の雨の中をも調査しなければなりません。しかし、そうした苦勞を伴った調査の積み重ねがあるからこそ、その土地の歴史が明らかにされ、やがては博物館の展示などにも活かされることになるのです。

(牛山)



幻と消えた東京山手急行線！

中野 守久 (当館学芸員)

8月末まで当館では「メトロストーリー」と題するミニ展を開催していた。昨年区内を貫通する地下鉄南北線が開業20周年を迎えたことを記念して遅時きながら実施したもので、地下鉄の歴史と南北線開業にまつわる内容である。

展示資料の中には「東京山手急行電鐵株式会社株式募集」のパンフレットがあった。東京山手急行は知る人ぞ知る戦前に企てられた鉄道事業で、東京外周に約50kmにわたって巡らされた計画である。東は洲崎町を起点として小松川町・千住町を經由し田端・滝野川町・王子町巢鴨町を通過して板橋町に至り、野方町落合町・代々幡町和田堀内町・世田ヶ谷町駒沢町を經由して西の起点大井町へと至る、現代でいえば環状七号線道路の機能に近い交通体系ということになるのか。踏切のない塹壕式と称した半地下に鉄道を敷くという斬新な方式で、大正15年(1926)に鉄道免許を申請し翌年には早くも免許が交付されたが、世界恐慌のあおりを受け計画が頓挫し残念ながら幻の鉄道事業になった。資料は横四つ折りで、多色刷りの表面には中央に金子常光が描くパノラマ路線図をすえ、その左右には電車の想像図と「山手急行沿線町村ト其人口ニ近キ地方都市」と称する地図を配している。裏面には発起人の趣意書として12項目にわたる特色とともに、起業目論見書・建設費予算・収支概算書・定款が刷られている。

都公文書館に保存されている線路平面図で区内の路線を詳細に見てみると、田端駅から一度山手線の内側に入り駒込駅の東で再び外側に出て滝野川南部をほぼ直線的に通る板橋駅へと抜けており、間には西臺通・霜降橋・染井・滝野川・小原の停留場が想定されていた。さて、本鉄道が実際に建設されていたら果してどうなっていたか。恐らく沿線の滝野川地区の町並みは相当変貌したと思われる。田端駅附近の崖際や谷田川通り・日光御成道等には切り通しに似た塹壕式の鉄路が横切り、町は分断されていたであろう。生活上必要とあれば塹壕には橋が架けられ、町民はそれを渡って行き来したかもしれない。さしずめ高速道路が貫通し

た川崎市や調布市のようなものだ。また、この頃は都市化が急速に進んでいたが、東京市外には緑地帯も結構残っていた。当時は道路もまだあまり舗装されておらず、降った雨も大半は地中に浸透したことであろう。現在道路はほとんどが舗装されているので、降った雨の一部は塹壕に集まり、浸透できなかった箇所は沼地化し鉄道を浸したかもしれない……。

大正時代末というのは本誌第26号でも紹介したように渋沢栄一をはじめとして滝野川町民らによる西ヶ原一里塚の保存運動が結実した時期であった。現在北区には江戸時代からの旧道や史跡が数多く残されているが、こうした保存運動が効を奏したことが大きかったようにも思われる。東京山手急行線が実現しなかったことが現在の北区にとって良かったのか悪かったのか、今となっては分からない歴史に埋もれたエピソードである。



「東京山手急行電鐵株式会社株式募集」に描かれた電車想像図(部分) 当館蔵

クローズアップ 豊島

隅田川が大きく蛇行している場所。その様から昔の人たちはこのあたりを“天狗の鼻”といいました。(荒川放水路を通したとき、鼻は少し短くなってしまいましたが・・・) 豊島は飛び出した鼻先から根元のあたりまでの川に接した町です。豊島を歩くとそこかしこに昔をしのぶものに出会えます。水にまつわる水神様の祠や、かつて工場があったことを語る不思議な煉瓦、そうそう、江戸から残る古い道も。今回は、そんな歴史の語り部に出会える町、豊島をクローズアップ。

☆クローズアップ豊島は平成24年度博物館実習生が中心となって作成しました。

水と共に生きる豊島の暮らし

水は人が生きていくために欠かせないものですが、大雨や水難など、時として人々の暮らしを困らせることもあります。でも川は、豊島の人たちにとって、より身近な存在です。ここ豊島の地には昔、水や川にまつわる様々な風習がありました。

新田橋が架かるより昔の話。豊島に住む人は、年の瀬にあるものを川に流していました。それは紙の人形です。紀州神社からいただいた紙の人形に名前を書いて隅田川に流したそうです。一年の身の穢れを流すということなので

しょうか。また、七月になると、初物のキュウリを流していたそうです。川であぶないことが起こらないようにカッパにお供え物をしたのですね。

このような川に物を流す行事は、今では見られなくなってしまいました。しかし、昔の人が水に感謝し、水と共に生きていたことを示す祠が今も豊島には残っています。(秋光)



町に残る水神様

知ってましたか？豊島の有名人

皆さん！豊島清光ってご存知ですか？実は鎌倉幕府を開いたあの源頼朝とつながりのある人物なのです。時は治承4年(1180年)、石橋山の合戦に敗れ関東進出を阻まれていた頼朝にいち早く味方し、武蔵入国に一役買った武士なのです。このことで頼朝から信任を得た豊島氏は、その後太平洋沿岸各地の守護を任されるなど、全国的に活躍しました。

この豊島氏の館があった場所が現在の清光寺のあるところといわれています。清光寺の名は一族発展のきっかけを作った清光に因んだものなのですね。寺には清光の木像が安置されています。

どうですか？清光に会ってみたいと思いませんか？残念なことに寺にある清光

像は普段は拝見できません。もし、どうしても清光に会いたいという方は北区飛鳥山博物館へいらしてください！いつでも清光像(レプリカ)がお待ちしています。(萩原)



清光の木像のある清光寺



①シャレた看板



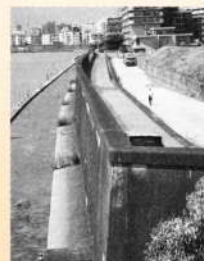
②古い商店



③何て控えめな道標



⑦釣れますかあ～?!



⑧そびえたつカミソリ堤防



⑨橋のたもとの馬頭観音

豊島流“MOTTAINAI”ーカラミ煉瓦ー

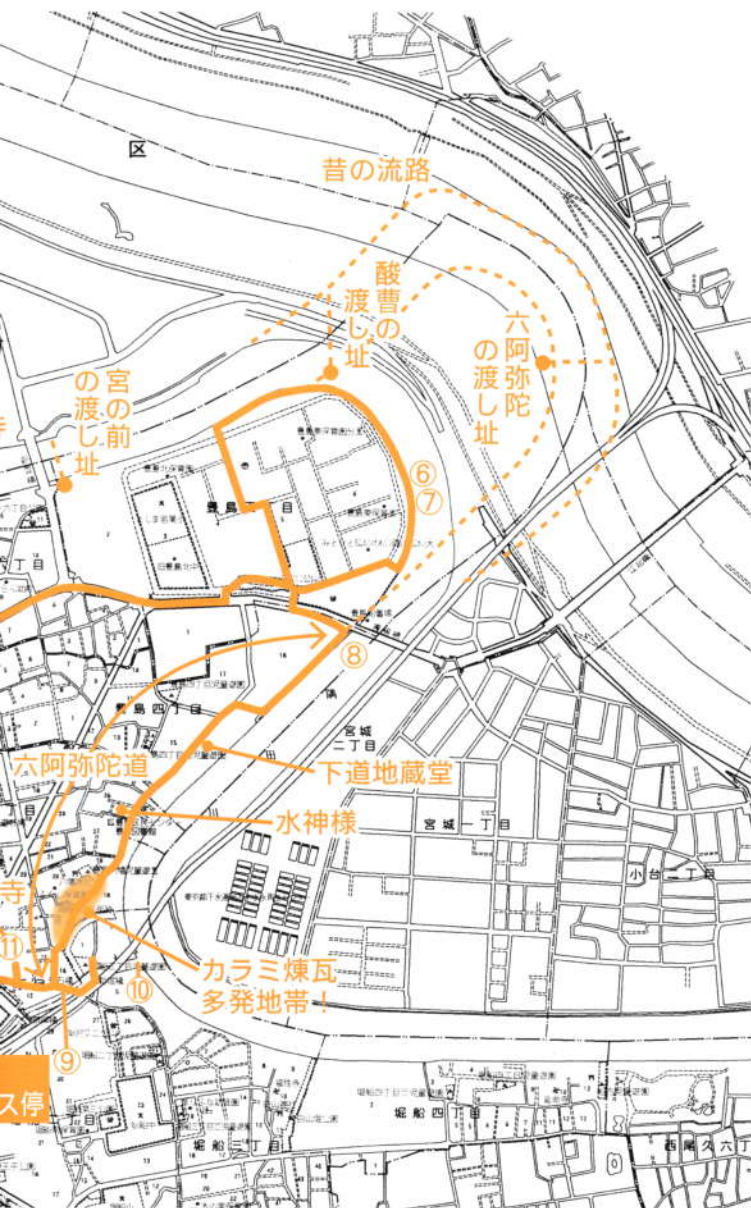
黒？いや暗褐色？不思議な色に輝くこの塊、一体何でしようか・・・？あっ、あっちの家の塀にも！こっちの花壇にも！豊島のそこかしこで見られるこれらのブロック、実は「カラミ煉瓦」と言います。

ただし、煉瓦と言っても粘土から作られるわけではありません。なんと、金属を精錬する過程で生じた残りかすを型に流し込み固めたものなのです。しかし、そんなカラミ煉瓦がなぜここ豊島で数多く見られるのでしょうか？謎を解く鍵は、現在の王子五丁目団地にあったかんとうさんそう関東酸曹株式会社の工場。そこで生じた残りかすを煉瓦のように直方体に固めて無料で提供するようになったのだとか。

それにしても“残りかす”も無駄にせず再利用するなんて、とってもエコ！そんな“MOTTAINAI”精神の詰まったカラミ煉瓦を、ぜひ豊島にいらして探してみてください。（黒沢）



玄関先にもカラミ煉瓦が！



阿弥陀の道は豊島に通ず？

江戸っ子のお彼岸といえば「六阿弥陀めぐり」！その名の通り、六体の阿弥陀様を祀った六つの寺をめぐること。ここ豊島でも、江戸六阿弥陀めぐりは盛んに行われました。春秋のお彼岸の頃、江戸六阿弥陀めぐりの為に、多くの人々が行き来した道が豊島四丁目に今も残っています。その名も「六阿弥陀道」。この道の始まりは阿弥陀めぐり一番目の寺「西福寺」。

寺を出て、豊島五丁目団地方面に伸びる六阿弥陀道を歩くと、新たに敷かれた道と違い、ゆるいカーブの連続であることに気がきます。しばらく行くと右手に現れる幾つもの赤い旗。「下道地藏堂」だ。18体のお地藏さんが、ちょっと窮屈そうに、でもやさしげな表情で迎えてくれます。昔の人々が往来した六阿弥陀道を辿ってみると、当時の人々の足音や息遣いが不思議と感じられます。さて、下道地藏に挨拶を済ませたところで、目指すは二番目の寺「恵明寺」！（大橋）



曲がりくねった六阿弥陀道



18体の地藏がズラリ！



④古代のムラがありました。



⑤紀州と関係のある紀州神社



⑥町を守った防潮堤



⑩石神井川25kmの終着点



⑪大迫力！西福寺の狛犬！



⑫蔵のある家

気候良き秋の一日。
豊島を散策してはいかがかな？



きよみつ

イベントレポート

春期企画展 発掘調査最前線 ―速報！北区の遺跡―

本年3月17日(土)から5月6日(日)にかけて開催された春期企画展は、13,008人のご来場を得て会期を終えました。本展は文化庁主催「発掘された日本列島」展の北区バージョンをイメージし、5年ほど前から区内各所で行われている発掘調査の成果を公開するものでした。このような速報展は当館では初の試みで、新発見の考古資料をいち早くご覧いただき、文化財保護のご理解を深めることに主眼を置きました。取上げた遺跡は西ヶ原貝塚^{みちあい たばたにしたいどり}、道合遺跡、田端西台通遺跡^{なかざとはけうえい}、中里峽上遺跡^{こてんまえ}、御殿前遺跡の5遺跡で、特別展示室を遺跡ごとのブースに分け、縄文時代から奈良・平安時代の多種多様な考古資料を列品する展示でした。貝塚出土の筒形土偶、方形周溝墓出土の夥しいガラス小玉や鞘に納められた鉄剣、23区内2例目の和同開珎^{わどうかいちん}や炭化した状態で出土した平安時代の扉板材、全国で3例目となる鳥形平瓶^{とりがたひらか}などの貴重な展示資料は大変、注目を集めました。ホワイエでは、発掘された旧陸軍被服本廠の遺構や遺物も紹介されました。また、発掘調査担当者による講演会「掘った人が話す遺跡ア・ラ・カルト」では、発掘を疑似体験できるような調査現場の臨場感が伝わり、好評を博しました。ご来場者の企画展アンケートには、北区にこんなに遺跡があるとは知りませんでしたという感想が数多く寄せられました。

(中島)



満開の桜とご案内の看板



学芸員によるミュージアム・トーク

ドナルド・キーン展 ―私の感動した日本― をふりかえってみて

平成24年5月19日(土)～6月24日(日)を会期として、ドナルド・キーン氏(北区名誉区民・コロンビア大学名誉教授)の足跡を紹介する特別展覧会を開催しました。わずか32営業日で実に14,273人のお客さまを迎えることができ、世界初公開の資料という展示も大きな反響のなかで無事、会期を終えました。

展示はホワイエと特別展示室の2室から構成され、ホワイエでは、全体の導入部分を構成する映像「キーン先生、日本人になる」が上映され、キーン氏の熱のこもった独白を見る人のなかには感涙を流す方も見られ印象的でした。特別展示室ではキーン氏の半生を大型写真パネルで追いつつ、繊細かつ構想力に優れた著作の数々と研究活動をご紹介しましたが、コロンビア大学所蔵の書翰^{しょかん}をはじめとする種々の資料を通じてキーン氏と作家・文化人との交流の姿を見入るお客様からは「深く感動した」とのお言葉も頂戴しました。また原稿・文化勲章・数々の名誉博士号学位記、ニューヨークの書斎で使用した椅子などの実物資料からは「学問に生きるキーン氏のお人柄^{かも}が醸し出ている」との評もいただき展示担当としてホッとするひとこまでした。

日本とそこに住む人々を心から愛するキーン氏のお人柄と業績に触れるこの試みは、これまでにない深い感慨ある展示となりました。

(石倉)



ホワイエで真剣に映像に見入る来館者の方々

資料紹介 SPレコード 「飛鳥山音頭」「王子小唄」

東京の盆踊りの定番曲といえば「東京音頭」。この曲は昭和7年(1932)に「丸の内音頭」として誕生し、翌8年にリメイクされて大ヒットしたものです。本来「音頭」は独唱に掛け合いが加わる民謡の一形式ですが、大正後期から昭和期にかけては各地で「音頭」「小唄」「～節」などと題したさまざまな「新民謡」が生み出されました。「新民謡」は主に地域の特色や名所などをテーマとしたもので、その曲調は民謡に限定されず、小唄調や洋楽調まで登場しました。

「新民謡」は北区域でも生まれています。当館が所蔵する昭和初期のSPレコード盤のなかにある「飛鳥山音頭」と「王子小唄」。レコードの寄贈者で両曲の作詞を手がけた小野磐彦氏は明治29年(1896)に生まれ、晩年は北区の文化財調査員として活躍された方です。作曲は当時陸軍造兵廠火工廠に勤務していた小松作巳氏、振付は洋舞家の生山屯氏がおこないました。

「ハァー 春が来た 来た 飛鳥山」で始まる「飛鳥山音頭」は春から秋の飛鳥山の風情を7番まで歌い、昭和7年に王子区の誕生を記念して作られた「王子小唄」では王子だけでなく滝野川や赤羽地区の四季を6番に分けて取り

上げています。残念ながら、両曲は当時広く歌い踊られるまでには至らなかったようです。しかし、詞には小野氏自身が目にしていた80年前の風物がふんだんに読み込まれており、北区域の「古き良き時代」を伝える稀少な曲となっています。(久保埜)



左：「飛鳥山音頭」 右上：「王子小唄」 右下：「飛鳥山音頭」歌詞

博物館インフォメーション

夏休みわくわくミュージアム☆2012 本年もありがとうございました。

飛鳥山博物館の毎夏の恒例イベント「夏休みわくわくミュージアム」が無事終了いたしました。

会期中(7月21日～8月31日)は、てんやわんや!当館の学芸員総出で子ども向け・親子向けの講座(勾玉づくり、土器づくり教室、藍染、絵馬作り、行燈作り、かご作り、地下鉄車庫見学会etc...)をほぼ毎日行いました。今年も、わくわくミュージアムの講座にたくさんのご応募をいただきありがとうございました!

特別展示室では「メトロストーリー(地下鉄物語)」、常設展示室では「ブラックコン吉を探せ」、ホワイエでは「調べものコーナー」、涼やかな海が見えるディスプレイの「コン吉海の家」では、お手玉・けん玉・ヨーヨー・輪投げなど昔のおもちゃを楽しんでいただけるようにしました。

講座参加者の笑顔や、減っていくぬり絵やブラックコン吉のシールを見るに、今年の夏もたくさんのお友だちが楽しんでくれたようで当館一同とても嬉しく思っております。



博物館実習生が今年も大活躍!

今年の夏も学芸員資格取得を目指す博物館実習生が当館活動の補助をしてくれました。みなさん、お疲れ様でした。炎天下での実踏調査の成果を「クローズアップ豊島」でご覧いただけます。

東京文化財ウィーク2012 東京9区文化財古民家めぐり

かつて江戸の近郊農村だった都内9区(足立・板橋・江戸川・北・江東・杉並・世田谷・練馬・目黒)に、文化財となっている古民家が保存されています。北区では、赤羽自然観察公園内に「ふるさと農家体験館」として旧松澤家住宅が移築復原されています。これらを紹介する現地解説会やパネル展を開催します。この機会にぜひ古民家めぐりをお楽しみください。



●旧松澤家住宅解説会

10月28日(日)・11月23日(金祝)、両日とも10時半・13時半より

●9区合同企画展<来て見て発見!はじめてよう古民家めぐり>
会場：東京区政会館1階エントランスホール(飯田橋駅東口)
会期：10月3日(水)～15日(月) 9時～20時半(土曜～17時)、日祝休館

●9区合同解説会<古民家の魅力伝えます>

会場：練馬区立石神井公園ふるさと文化館、および旧内田家住宅(練馬区石神井町5-13-27)
会期：11月17日(土)・18日(日) 10時～16時

「昔の北区の写真を探しています。」

みなさんのお宅に古い写真はありますか?戦前から昭和50年代までの北区の町並みや、人々の暮らしぶりがうかがえるような写真がございましたらご一報ください。

夏

は過ぎ、
秋の事業は
目の前に。

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

暑い夏、いかがお過ごしでしたか？皆さんの夏の1ページに飛鳥山博物館の思い出が加わっていただいたいのですが…。私はといえば、イケナイ、イケナイと思いつつ、クーラーのスイッチに手が伸びる自身のふがいなさを大いに反省する夏でもありました。ところで、飛鳥山博物館では、赤羽西5丁目の赤羽自然観察公園内にある、「北区ふるさと農家体験館」の管理運営をおこなっています。ここには「旧松澤家住宅」という茅葺き屋根の古民家が移築されているのですが、暑い日に古民家の中に入ると、自分の家よりも涼しいことに気が付きます。「家の造りようは夏をむねとすべし」、100%天然素材の伝統的な古民家の造作に、日本の風土に合った知恵が活かされていることに感心しきりです。(秋にこの古民家の解説会を予定していますので、皆様をお待ちしています。)

さて、博物館では、いよいよ秋の企画展や講座がスタートです…。自分の講座の準備は万全か?!…う～ん…気合入れなくっちゃ。(山口)

利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】

毎週月曜日
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上) ★	150円		
小・中・高	100円	80円	240円

★平成24年4月1日より導入



- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山公園停留所より徒歩1分

※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧になれます。

平成24年度下半期の主な催し物

- 特別展覧会「第11回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/15～10/14)
 - ・関連イベント「陶芸を楽しむ学講座」(9/22)
 - ・関連イベント「上映会一映像で知る人間国宝の技」(9/23)
 - ・関連イベント「人間国宝に学ぶ! 鍛金体験講座」(9/29)
 - ・関連イベント「作家が語る! 作品解説」(9/30、10/8)
- ふるさと北区区民まつり「勾玉ストラップをつくろう!」(10/6、10/7)
- 講座「いざ、鎌倉! 歩く編」(10/13・10/14 全2日)
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物・田端不動坂遺跡出土資料」(10/20)
- 文化財講演会「魅力再発見! 仏像彫刻の世界」(10/21)
- 秋期企画展「赤羽台古墳群に眠る人ター石と埴輪から探る東国古墳文化―」(10/27～12/9)
 - ・関連イベント「ピックアップ企画展」(11/3・12/2)
 - ・関連イベント「埴輪と房州磯石の故地を訪ねる」(11/17・18・25 全3日)
 - ・関連イベント「公開講演会」(12/1・12/8)
- 講座「いざ、鎌倉! 座学で学ぶ編」(10/27)
- 東京文化財ウィーク2012 参加事業「東京9区文化財古民家めぐり 旧松澤家住宅解説会」(10/28、11/23)
- 東京文化財ウィーク2012 参加事業「北区文化財めぐり(王子・西ヶ原編)」(11/4)
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物たち・中里遺跡出土丸木舟」(11/10)
- 東京文化財ウィーク2012 参加事業「東京都指定史跡・西ヶ原貝塚を訪ねる」(11/11)
- 飛鳥山3つの博物館合同企画「歴史発見! 街めぐり」(11/15)
- 文化財公開事業「稲付の餅搗き唄の実演と体験」(11/24)
- 講座「幻の江戸東京野菜・滝野川牛蒡の産地を訪ねる」(11/30)
- 講座「歩く勉強会～繁華街いまむかし」(12/9)
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物たち・平塚縁起絵巻の巻」(12/22)
- 学校対応授業「来て、見て、さわって! 昔の道具展」(1/9～2/28)
- 講座「縄文ポシェットをつくろう」(1/12)
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物たち・縄文時代の土偶たち」(1/19)
- 講座「民具資料講座」(1/26)
- 講座「郷土玩具にみる玩具と風俗」(2/1・2/2 全2日)
- 講座「第21回 新聞から読む考古学」(2/16)
- 講座「プレお花見講座・浮世絵にみる女たちの行楽」(2/17)
- 講座「博物館の歴史を学ぼう」(2/23)
- 講座「縄文土器をつくろう」(3/3)
- 講座「赤羽台団地に関する事業」(3/9)
- 春期企画展「ボンジュール、ジャポン かたち・けしき・ことば―表象と記号の幕末・明治展―」(3/12～5/6)
 - ・企画展講演会「写しの名所 景観のジャポニズム」(3/16)
 - ・企画展解説(3/30)
- テーマ展示「オポエテマスカ?―あの暮らし・この道具 ver. 2―」(3/16～6/23)
- 講座「探訪! 押さえておきたい北区のツボ」(3/31)
- 講座「新・遺跡探訪」(3/23・3/24 全2日)

※催し物は仮称、() 内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、HPをご覧ください。

編集後記

暑い夏を乗り越えようやく秋めいてまいりました。飛鳥山の紅葉もこれから深まってまいります。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、今回の「ぼいす」はイベントレポートが2本もございます。当館の展示の裏側は、いかがでしょうか。

ご感想をお待ちしております。

(平澤)

北区飛鳥山博物館だより

ぼいす 29

発行日 平成24年9月20日
編集・発行 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
印刷 文明堂印刷株式会社